

実施報告書

山頭火生誕140年に向けて

第65回熊本県芸術文化祭参加

「まよぼうも隣に山頭火」

下通の店「雅楽多」を舞台に愛の物語

市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール

2021.
10/2
土曜日

開演 13時00分(開場 12時30分)

特別講演 13時00分
創作劇 14時45分

全席自由

主演 浜畑賢吉



作

井上智重

制作総括

小川芳宏

作曲

出田敏三

演出

堀田 清

音楽デザイン

春口信子

出演

浜畑賢吉

春日保人

山本真由美

出田秀尚

下可愉宇起

徳富敬隆

高浜海斗

福島竹峰

高濱流光華々

芦刈剛信

桑路ススム

田川智則

浦上健二

丸山幸介

井芹誉子

兼武尚美

木村久美子

田中浩子

村山歩佑

松尾雅宗

兼武住凛

勝谷陽仁



五木寛之特別講演会

「放浪と定住」



山頭火ブームの前に『青年は荒野をめざす』『風に吹かれて』の五木寛之がいた。「旅の作家」と自称する五木さんは半世紀を過ぎ、いま何を語るか。

入場料 前売 3,500円 (当日4,000円) セブンコード:090-629

illustrator 松島寿市

【主催】種田山頭火記念年事業実行委員会 【共催】熊本県文化協会、一般財団法人 熊本公德会

【後援】熊本日日新聞社、NHK熊本放送、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791、熊本演劇人協議会

【助成】公益信託 くまもと21ファンド、公益信託 熊日文化スポーツ基金、一般財団法人 熊本公德会

○チケットのお求めは……熊日プレイガイド(096-327-2278) / 熊日生涯学習プラザ / お菓子の香梅各店(熊本駅店・鶴屋店を除く)

○お問い合わせ:熊日生涯学習プラザ TEL096-327-3125 mail:plaza@kumanichi-sv.co.jp

※新型コロナウイルス感染症対策を実施して開催します。あらかじめご了承ください。

事業概要

(1) 事業名

種田山頭火記念年事業
特別講演と創作劇「きょうも隣に山頭火」

(2) 目的

令和4年(2022年)は種田山頭火の生誕140年であり、2020年は没後80年でした。
熊本には小泉八雲や夏目漱石らが五高の教師として暮らし、文学作品を残した。それは熊本の文学遺産として熊本の誇りであり、大事にされている。種田山頭火も熊本で多くの俳句をつくり、また文章を残した。八雲や漱石と並ぶ文学遺産だといえよう。山頭火の俳句は教科書にも取り上げられ、多くの人々から愛されている。
今回、民間において実行委員会を組織し、2022年の山頭火生誕140年の記念年に向け、五木寛之氏による特別講演会と創作劇を公演。この創作劇は作・作曲はもとより、客演の浜畑賢吉氏をのぞき、地元で活躍する舞台人(演劇、声楽、日舞、民謡、演奏)によるオリジナル舞台作品です。山頭火の業績を顕彰するとともに「熊本の山頭火」を県内外に広く発信したいと考えています。
更に、来年度には「山頭火展」やシンポジウム、俳句大会、文学散歩など多彩な行事が展開されるよう牽引役となり、県内の文化施設、文化団体にも働きかけていきたいという企画です。

(3) 公演日程

2021年10月2日(土) ◆特別講演 開演13:00~ ※当初2020年11月25日実施で計画。
◆創作劇 開演14:45~ 新型コロナウイルス感染症の影響で
開場12:30 左記日程に変更となった。

(4) 入場料

前売券3,500円 (セブンチケット セブンコード:090-629) 当日券4,000円

(5) 会場

市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール
〒860-0805 熊本市中央区桜町1番3号

(6) 主催

種田山頭火記念年事業実行委員会

(7) 共催

熊本県文化協会、一般社団法人 熊本公德会

(8) 後援

熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791、
熊本演劇人協議会

(9) 来場者数

798名 ※新型コロナウイルス感染症対策のため入場者数を大幅に制限して開催

(10) 事業の実施内容

特別講演 「放浪と定住」 90分 講師:五木寛之

創作劇 「きょうも隣に山頭火」 90分 監修:浜畑賢吉 作:井上智重

あらすじー

敗戦後の熊本市。空襲で家を焼け出され、間借りしているサキノが山頭火の位牌の前にうどんを供え、念仏を唱える場面から始まる。押し入れの中から幽霊となった山頭火が現れる。サキノには山頭火の姿は見えない。こたつに入り、向かい合い、うどんをすすりながら、互いになじりながらも、そこはかとなく夫婦の愛情も漂う。サキノは飲めない酒を飲み、怪気炎。こたつの上でうつぶせになり、寝込んでしまい、山頭火ははんてんをかけてやり、押し入れの中に。幽霊になった山頭火がときどき現れ、物語のナビゲーターの役目も演じる。

大正5年、山頭火が妻サキノと幼い一人息子の健を伴い、熊本に移り住み、下通に「雅楽多」という店を開く。親子三人小さな幸せも。街の若い文学者らに誘われ、句会や短歌会にも出入りし、九州新聞に小さな俳句欄も持つようになる。「句は人格の光なり、生活の力なり」と唱え、象徴詩としての俳句運動を始めるが、なかなか受け入れられず、酒におぼれ、しかし文学への執念が断ち切れず、妻子を熊本に残し、上京。サキノとの離婚届けに捺印をするが、関東大震災でほうほうの体で熊本に戻り、身を寄せるのは妻子のいる熊本でしかなかった。泥酔し、市電をとめたことがきっかけで印鑑彫りの木庭市蔵の世話で、報恩寺の門をくぐり、出家得度。植木の味取観音で日曜学校を開き、子どもたちから慕われるが、やがて漂泊の旅へと立つ。

山頭火は旅に疲れ、「雅楽多」でサキノの手伝いをし、また琴平町に庵を結ぶが、無銭飲食事件を起こし、再度行乞の旅に。郷里のほとりの小郡(現山口市)で其中庵を結ぶ。秋田鉱山専門学校を卒業し、飯塚の炭鉱に就職した健から仕送りも受ける。その健が熊本で結婚式を挙げることとなり、まとまったお金を送ってくるが、それも飲んでしまう。やがて健は満洲の炭鉱に転勤となり、だしぬけに訪ねてきた健と食堂で酒を酌み交わし、それが別れとなった。松山に渡り、一草庵で昭和15年10月11日、ころり往生する。

そして昭和26年、大山澄太が熊本を訪ねて来て、「山頭火の思い出」という座談会が開かれる。その隅っこに幽霊の山頭火もいた。

行乞流転する山頭火の句と山河の風景は音楽と映像によって表現する。

残されたサキノの孤独や健との父子の姿なども描き、山頭火とサキノと健の愛情物語である。

作 井上智重
 監修 浜畑賢吉
 制作統括 小川芳宏
 作曲 出田敬三
 演出 堀田 清
 音楽デザイン 春日信子
 舞台監督 西山広成
 舞台美術 吉本政弘 (吉本美術)
 照明 色川 伸 (ステージ・ラボ)
 音響 菊本 明
 衣装 村木美保
 飯富美雪
 井芹誉子
 小道具 椎葉みず穂
 浦上建二
 丸山幸介
 メイク 酒井陽子
 着付け 森山純子
 方言指導 小野登美子

◆出演◆
 種田山頭火
 咲 野

浜畑 賢吉
 春日 保人
 山本真由美
 出田 秀尚
 下司愉宇起
 徳富 敬隆
 高浜 海斗
 福島 竹峰
 高濱流光華々
 芦刈 剛信
 桑路ススム
 田川 智則
 浦上 健二
 丸山 幸介
 井芹 誉子
 兼武 尚美
 木村久美子
 田中 浩子
 村山 歩佑
 松尾 雅宗
 兼武 佳凜
 勝谷 陽仁

ピアノ 小野田美緒
 ヴァイオリン 柴田 恵奈

種田山頭火記念年事業実行委員会
 委員会名簿

委員長 小野 友道
 副委員長 河村 邦比兎・副島 隆
 会計 小川 芳宏
 監査 本田 憲之助
 委員 潮谷 義子・福田 綱・中山 峰男・目黒 純一・出田 敬三・
 出田 秀尚・吉丸 良治・笠 日出臣・栗谷 利夫・緒方 弘義・
 平野 有益・大江 捷也・井上 智重

事務局 熊日生涯学習プラザ (熊日サービス開発株式会社)
 林田 真・荒木 美雄

公演日

2021年10月2日 (土)

熊本日日新聞に掲載された公演の記事

掲載日 10月3日(日)朝刊

自由俳句で知られる俳人、種田山頭火が主人公の創作劇「さよふも隣に山頭火」が2日、熊本市中央区の市民会館シアターズホームで上演された。山頭火の句や短歌を交えながら、漂泊の俳人・の家族愛を描き、約800人の観客を惹き寄せた。

県内の文化関係者らでつくる実行委(小野友道委員長)主催。元くまもと文学・歴史館館長の井上智重さん作で、種田にゆかりの深い俳優浜畑賢吉さんが監督した。1918(大正5)年に移り住んだ熊本での山頭火を浜畑さん、出家して旅をする山頭火を所業家の齋藤保人さんが演じ分け、県内の演劇人・音楽関係者ら約30人が脇を固めた。

山頭火と妻サキノ、一人息子(種田)と友人たちとの日常を、テンポのいいせりふ回しやユーモアあふれる演技で描いた。家族を愛しながらも放浪する山頭火の思いを「分け入つても分け入つても青い山」などの句に託し、春日さんがピアノの伴奏で歌い上げると、会場は拍手で包まれた。

劇に先立ち、作家五木寛之さんが「放浪と定住」と題して講演。「明治以降、放浪は良識のない行為のように見られがちになった。山頭火が人を引きつけるのは、日本人の心に自由への憧れがあるからだろう」と話した。(取材 咲野)

山頭火の家族愛描く
 熊本市で創作劇上演



創作劇「さよふも隣に山頭火」で山頭火を演じる浜畑賢吉さん(中央)＝2日、熊本市中央区

市民会館崇城大学ホール (1579席)
 〒860-0805熊本市中央区桜町1番3号

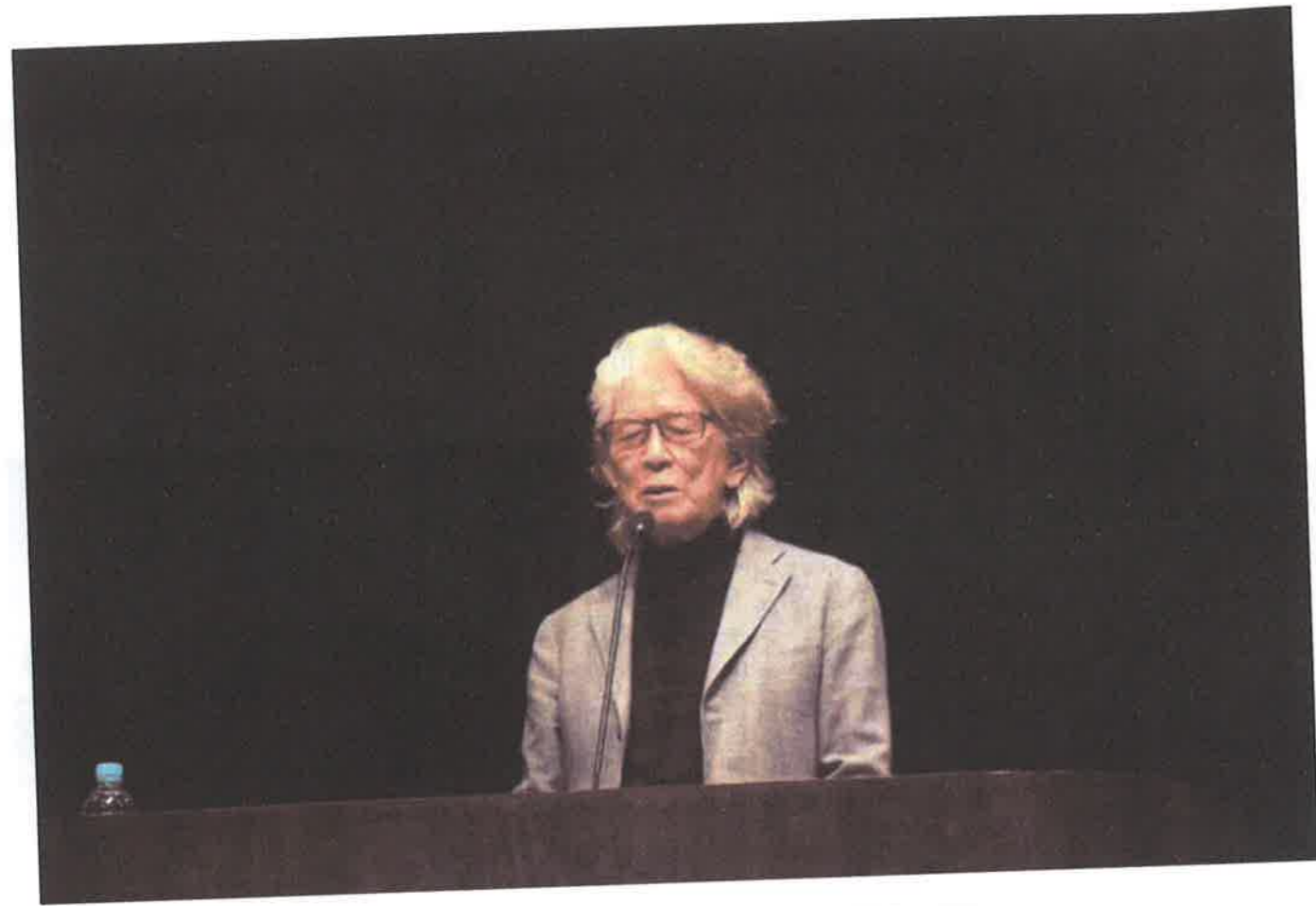
○2021年10月2日 (土)

特別講演 13:00～

創作劇 14:45～

来場者数 798名

※新型コロナ感染拡大防止対策として
 入場者数を大幅に制限して開催



	販売数
▼チケット	
熊日プレイガイド	70
熊日生涯学習プラザ	31
セブンチケット	43
お菓子の香梅販売分	131
ハガキ返答	153
実行委員販売分	181
実行委員販売分(出演者)	210
当日券	46
小計	865
▼招待	
招待券	36
協賛・広告社招待	18
プレゼント企画招待	
小計	54
総合計	919

※新型コロナウイルス感染症対策のため
入場者数を大幅に制限して開催

①収入

項目	金額	説明
■自己負担金	650,000	制作委員会が出資する
■チケット販売収入		
前売り券	2,783,637	819枚
当日券	184,000	46枚
■助成金		
21世紀ファンド助成金	1,640,000	
熊本放送文化振興財団	250,000	
熊日文化スポーツ基金	200,000	
熊本公德会	200,000	
熊本県文化協会	269,000	※新型コロナウイルス対策助成金
■パンフレット広告	1,300,000	10万×2社、5万×22社
合計	7,476,637	

②支出

謝礼・出演料			
講演会謝礼	886,700	五木寛之氏	No.1
舞台出演者謝礼	334,112	浜畑賢吉氏	No.2
旅費・交通費			
講演会講師 旅費・交通費	129,063	五木寛之氏	No.3
舞台出演者 交通費	380,645	浜畑賢吉氏	No.4
舞台出演者 交通費	115,000	春日保人ほか	No.5
使用料・賃貸料			
市民会館 ホール使用料	324,420		No.6
市民会館 付帯設備使用料	425,870		No.7
練習会場費	78,865	馬水南公民館ほか	No.8
実行委員会会場費	3,530	熊日倶楽部	No.9
委託費			
脚本料	330,000	井上智重氏	No.10
制作管理統括料	220,000	種田山頭火記念実行委員会	No.11
作曲謝礼	334,112	出田敬三氏	No.12
音楽使用著作権料	6,997	ジャスラック	No.13
舞台大道具関連	800,000	吉本美術	No.14
照明	484,000	ステージラボ	No.15
音響			
衣装・カツラ・小道具	240,925		No.16
チラシ・ポスター、パンフ原稿作成	140,000		No.17
会場立て看板等	58,500	縦看板、ほか	No.18
事務経費	652,574		No.19
制作協力費	587,000	劇団石	No.20

印刷費			
チラシ	32,450	A4 表カラー 裏モノ 5000枚	No.21
ポスター	26,400	B2 カラー 200枚	No.22
チケット	28,050	3000枚	No.23
パンフレット	99,000	28P 表紙カラー 1200部	No.24
制作発表資料	80,000		No.25
封筒	16,500	33円×500枚	No.26
ご案内等印刷	1,970	送付状2円×460枚、ハガキ印刷3円×350枚	No.27
通信運搬費			
ご案内送付	28,616	84円292通、94円37通、120円1通、140円2通、210円1通	No.28
返信用ハガキ	7,938	63円×126通	No.29
チケット送付	10,584	84円×126通	No.30
レターパックライト	7,770	370円×21通	No.31
広告料			
新聞掲載など	440,000	半5段、半3段を熊日朝刊・夕刊に掲載	No.32
飲食費			
ケータリングほか	110,646		No.33
コロナ対策備品			
抗原検査キット購入	54,400	120個	No.34
合計	7,476,637		